
candy in the bottle

亜裏子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

candy in the bottle

【Nコード】

N1142J

【作者名】

亜裏子

【あらすじ】

子どものころからある
家の窓から見える
たくさんの小瓶に入った飴玉
高校2年になった今、
瓶の数は減ると同時に
ヒヨリに芽生える恋心
ヒヨリとカズキと増えることのない飴玉
ちよっと切ないラブストーリー

きつとはじまり

子どものころ

可愛い飴を小瓶にいれて

いっぱい並べてる

お家を見つけた

その飴は日々減って行く

17歳になった今

数十個あった小瓶は

あと2個

何故か

飴は増えることはない

毎日毎日その家の前を

通ってしまう

もおすぐ冬だな

と思い始める

10月中頃

まださすがに

そこまで寒くないけど

周りのファッションや

風景とかは

どんどん冬色になっていく

わたしは

一般的に言う

地味でパツとしない性格

よく漫画で

典型的な地味子がいる

その子をおさげから

普通のストレートにしたのが
わたしだ

けど

わたしだって好きで

こんな風なった訳ではない

ただわたしの趣味が

地味だから

自然とそっちに流されたんだ

「かとり、」

加藤 カトウ 日和 ヒヨリ

わたしの名前

基本名前を呼ぶ人はいない

けど

こんなわたしを呼ぶ人も

いてくれる

わたしが

後ろを振り向くと

3冊の本をもった

イケメンで有名な

とうの かずき
東野 一輝君

髪は今風にワックスと

ヘアスプレーで

綺麗にアレンジされた

黒髪で

女の子も羨ましく思うくらい

肌の色は白く

耳にはシンプルな

デザインのピアスが片耳に2つずつ

まあ、

わたしとは無縁のはずの人

けど東野君は

最近の男子とは違う

東野君は読書好きで

それがわたしとの接点

「この本さ、

続編出てるっぽいんだけどさ

俺図書室で見たことないんだよ

かー知ってる??」

唯一の接点、

それは読書の趣味、

わたしと東野君は

意外にも

結構好きな本の趣味が

似ていた

「あ、それは図書室にないよ？」

「まじっ…やっぱ買うしかねえか・・・」

「あ…、わ、わたし持ってるけど
よかったらかすよ？？」

「うそっ！！いいの！！」

そんな笑顔で喜んでくれるら、

「もちろんだよ」

「やった！！さんきゅな」

そう言ってニコツて

微笑んでくれる東野君は

きつとどんな人よりも

すっごく素敵で

すっごく好きだと思ってしまった

変化

”今日はいいいことあったな．．．”

東野君と話せた日は

帰り道にその日のことを

考えながら道を歩く

いつもと変わらない生活の中で

東野君と話せたという

わたしなりの小さな幸せ

”明日本もって行かないと”

．．あ

ふと意識がそれる

視界に入ってくる

いつもの家

今日も少し減ってる

瓶の中の飴玉

毎日通ってるのに

毎日足を止めてしまう

初めて見たときから
減ることのない飴玉

なんでだろ．．

気になってしまう

っ！！！！

いつもは
人影のいない家

なのに

いま
家の中に人が．．

って当たり前だよね

どこもない不安を抱えながら
あたしは家へ帰った

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1142j/>

candy in the bottle

2010年11月6日01時13分発行